

第6回渚滑川ほか減災対策協議会
第4回オホーツク西部減災対策協議会
議事概要

日 時：令和2年7月9日（木）13：30～15：00

会 場：紋別市渚滑市民センター 大ホール

出席者：紋別市長、滝上町長、興部町長、西興部村長、雄武町副町長、北海道オホーツク総合振興局副局長、網走地方気象台長、北海道警察北見方面本部警備課長、紋別警察署警備課長、興部警察署警備係長、紋別地区消防組合消防長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 情報提供
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

(紋別市)

- ・洪水は上下流でタイムラグがあるため、下流側で水量の増加が確認できず、なかなか避難してくれないという状況がある。このため、定期的な避難訓練の実施や災害関係の勉強会等を地域で行っていくことが大切だと思っている。
- ・水防資機材は、ポンプ車だけではなく電源車や照明車等についてもできるだけ配備するように進めている。
- ・地域の高齢化が進んでおり、役所や関係機関だけの対応では避難も難しくなっている。このため、町内会の協力を考慮した避難訓練等も含めて常日頃やっていきたい。
- ・地域の高齢化を踏まえると、保健医療関係との連携も非常に重要となっている。特に避難所に保健師を配置する等、高齢者に対する配慮を行う必要があると考えている。
- ・新型コロナウイルスについての対策もしっかり進めていきたい。
- ・国交省の、国土強靱3箇年緊急対策では非常に多くの予算を積んでいただき感謝しているが、計画の完了にはほど遠い状況である。予算確保も含め、今後ともお願いしたい。

(滝上町)

- ・昨年、道の総合防災訓練に合わせて住民の避難訓練を行った。訓練は日時が決まっており、自主的に避難した住民もいたため、残っている方の確認が不十分であった。伝達手段及び確認手段をちゃんとしなければならないと思っている。
- ・伝達手段として登録制メールの配信を行っているが、現在のところ住民の1割しか登録していない。もっと職員が会合等の際に出前登録をしなければならない。
- ・高齢化率が44%であり、メールやネットが使用できない方がかなりいる。町内会を中心とした自主防災組織の組織率がゼロであり、1つでも立ち上げようと呼びかけを

- している。また、他市町村に出向いて実際の取組について研修する計画も持っている。
- ・滝上町には避難勧告の判断となる目安、基準の水位がないため、職員が土砂災害等総合的に判断し、住民へ情報伝達しなければならない。水防に限らず災害についてマニュアルはあるため、日頃から図上訓練など防災訓練を職員がしっかり行っていくことが大事であると思っている。

(興部町)

- ・平成 10 年に災害があり、数十億円の災害復旧工事を行ったが、あれから 22 年経過し、当時災害を担当していた職員も、防災訓練に参加する側となっている。今の職員は、当時の記憶がなくなってきているので、当時のことをきちんと伝えることが大事であるとする。災害対応など、自分たちの自治体だけではなく、西紋の町村が協力するなど、広域的な対応が必要である。
- ・今年、ハンドブックタイプの防災ハザードマップを作成したので、町民に活用してもらいたい。
- ・昨年度実施した道の防災総合訓練における、物資搬入訓練では、水害の少ない滝上町で物資をヘリコプターから下ろし、雄武町、興部町、西興部村の順に運ぶという予定であったはずであるが、そのようになっていなかったため、機会があればより実践的な形での訓練をお願いしたい。
- ・日赤の根元先生の参考メモについて、レベル 4 での車での避難はさせないとあるが、市街地であればわかるが、農村地域が多い町内では現実的に難しいのではないかと考える。
- ・平成 10 年 9 月 15 日の大洪水の時は、大潮で満潮であったが、今回の九州の熊本の氾濫も大潮で満潮であり、過去に被害があった災害などについても、大潮で満潮の時が多い。しかも、被害のあった自治体は、海に面しておらず内陸にあるわけであるが、これは、河口の河川が満水となって逆流してくるために起こっている。气象台にも話したことがあるが、災害の時に潮位について説明をしてくれると、内陸部の首長にも伝わるのではないと思う。
- ・興部町は海に近づくほど河川の勾配が緩くなっていることから、川底に土砂が堆積し、河道が狭くなり樹木が生えることなどにより、計画よりも少ない雨量であふれるなど経験していることから、河川整備には費用がかかると思うが、引く続き整備をお願いしたい。

(西興部村)

- ・西興部村は山間部にあることから、水害が少ないが、昔小さな川が氾濫して、床上浸水したことがある。それらの地域に今回簡易型河川監視カメラがついたため、少し安心している。住民はあまり意識がないが、平成 10 年の洪水では道路が被害を受けたこともあり、今回の九州の想定外の災害をみて、今一度きちんとした意識を持つことが必要と考える。
- ・東日本大震災以降、年に 1 回住民総出の避難訓練を実施していたが、慣れなどで参加者が少なくなってきたことから、ここ何年かはセミナーということで住民に集まってもらっている。今年も予定しており、水害や土砂災害などを想定し、避難訓練や住民に意識を持ってもらうための新たな対応を考えたい。
- ・昨年の道の防災総合訓練での物資搬入訓練について、相当期待していたが期待外れであった。今後連携する場合は、住民へどのように物資を輸送してきたなどの情報を提供したほうが良いのではないかと考えている。

- ・防災訓練やセミナーは人口の1割以上が参加しているが、吹雪などが来そうな場合には、役場職員が何班かにわかれて、事前にお年寄りの家を訪問し情報提供している。今後は、水害にあってもそのような取組を進めていきたい。

(雄武町)

- ・雄武町では、平成10年、平成13年に災害が発生しているが、平成10年の災害は規模も大きく、これを契機に市街地を流れるオコツナイ川、ポンオコツナイ川の河川改修が始まっており、近年この整備の効果を感じている。
- ・減災の取組として、昨年度のブラックアウトをうけて、特別養護老人ホーム、役場庁舎、上水道施設、消防団詰所など10箇所に非常用電源設備を町独自で整備した。
- ・避難勧告の周知は、基本は防災無線で行い、広報車や自治会への直接通知等も行っているが、今後は多重化が課題と認識している。
- ・町内での自治会を中心とする、自主防災組織の組織率が非常に低いことから、防災訓練などにおいて各自治会に働きかけたい。

(網走地方气象台)

- ・防災減災への取組として、昨年度に引き続き地域の避難訓練、学校の防災教育等に取り組むとともに、各機関に協力いただき普及啓発に注力していく。
- ・コロナの影響で対面の講話がやりにくくなる可能性を踏まえ、リモートの教材を使って講和ができないか模索している。

(紋別地区消防組合消防本部)

- ・消防機関は、地域住民の生命、身体、財産をあらゆる災害から守ることを最大の使命としており、風水害、水災害に限らずあらゆる災害から現場での活動、特に救助、避難誘導が最大の任務だと思っている。
- ・紋別地区消防組合の職員が100名ほど、消防団員が460名ほどいるが、実際に災害が発生すればなかなか厳しい部分がある。各市町村と連携するとともに、警察や自衛隊、海上保安部とも連携を図るとともに、情報の共有を図っていく。
- ・計画的な資機材の整備は粛々と進めるとともに、組織として職員の教育、訓練も継続して実施していく。
- ・線状降水帯は、どれだけの雨がいつまで降るのかというのがピンポイントで予測がつかないと聞いている。そういった意味で大事な部分は、空振りを恐れなくて避難勧告・避難指示等を発令することだと思う。

(北海道警察北見方面本部)

- ・本会議に参加している各機関と管轄警察署との日頃からの情報共有をしっかりと行っていく。また、災害担当部門だけではなく、全ての警察職員を対象とした勉強会を開催している。
- ・方面本部の警備課員を中心に救助用舟艇の操縦や救助訓練、他の都府県警察が実際に経験した豪雨災害等の警備の事例に基づく教訓などを反映させ、本当に機能する対応マニュアルを目指して見直しを行っている。
- ・現在も大きな被害が拡大している、九州地方をはじめとした大規模災害の対応等、他府県警が経験した教訓等をよく検討しながら、今後の災害警備活動に反映させていく。
- ・住民が迅速で安全な形で避難行動を取れるよう、警察独自の広報や情報提供も継続し

て行っていきたい。

(紋別警察署)

- ・災害の広報活動として、各交番や駐在所で発行している広報誌に防災に関する記事を掲載して、町内会の協力を得て回覧板などで住民に周知している。また、祭りなど多くの人が集まるイベントの際に、防災に関するコメントが書かれたポケットティッシュなどを配布するなどして、住民の防災意識の高揚を図っている。
- ・紋別市や滝上町には外国人の技能実習生が多数おり、実習生として迎えた段階で防犯講話を行っている。防犯講話では、通訳員を介してハザードマップなどを見せて、避難所の場所だとかを教えて、周知している活動を行っている。

(興部警察署)

- ・災害の広報活動として、各交番や駐在所で発行している広報誌に防災に関する記事を掲載して、町内会の協力を得て回覧板などで住民に周知している。また、駐在所単位などで行っている防災講話を通じて、災害に対する啓発を行っている。
- ・他の警察署と比べると署員が少なく、小規模な警察署であるため、適切な初動体制が重要である。また、事前のイメージやそれに合わせた訓練が非常に重要であり、具体的なイメージがあることにより、災害発生時には迅速な対応が可能となると考えている。
- ・今後も定期的な訓練を継続していきたい。

(網走開発建設部)

- ・洪水氾濫を未然に防ぐ対策として、渚滑川の下流域で河道掘削を実施するとともに適切な維持管理のための樹木伐開を実施している。
- ・水害リスクの高い箇所等に危機管理型水位計13基、簡易型河川監視カメラ7基を設置したほか、重要水防箇所の共同点検、災害対策用機械の操作訓練等を実施している。
- ・引き続き関係機関と連携して必要な取組を実施したい。
- ・気候変動等の影響により激甚化する自然災害に対応した、真に事前の備えとなる抜本的かつ総合的な防災減災対策として、7月6日に第2回国土交通省防災・減災対策本部が開催され、総力戦で臨む防災・減災プロジェクトが取りまとめられた。
- ・この中では、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、河川、下水道等による治水に加え、あらゆる関係者により流域全体で行う流域治水へ転換することとしている。
- ・今後は全国の一級河川流域全体で早急に必要な対策として、流域治水プロジェクトを本年度内に策定し、事前防災対策を加速していく考えなので、引き続き関係機関にはご理解、ご協力をお願いしたい。

以上